

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立膳所小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

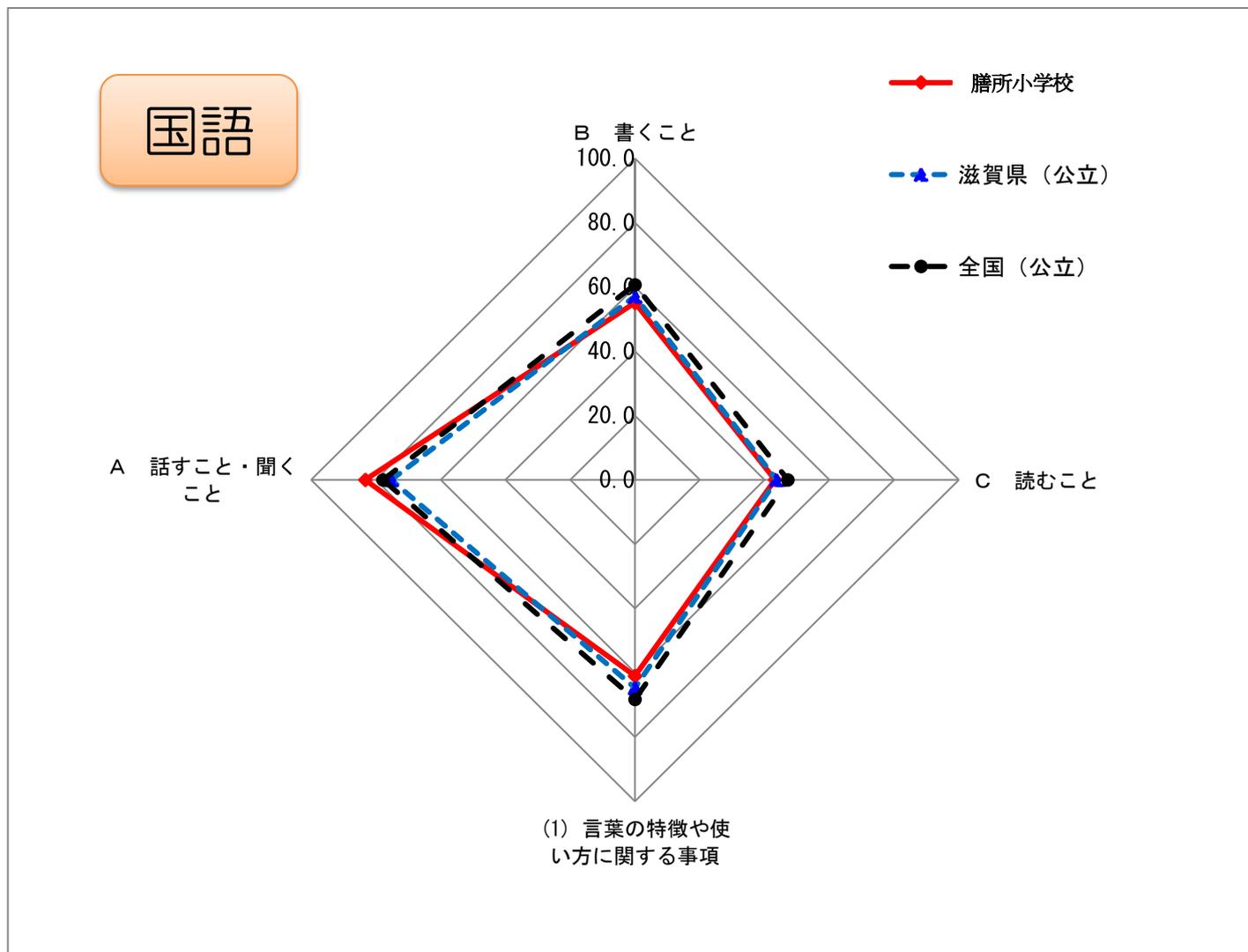
国語は滋賀県の平均正答率と同じであったが、全国平均正答率を下回る結果となった。算数では滋賀県の平均正答率を上回ったものの、全国平均正答率は下回る結果となった。両教科とも滋賀県の平均正答率と大きな差は見られないが、全国平均正答率と比べると下回る傾向が見られた。質問紙調査では、ほぼ全国と同傾向の結果となった。本校では、特に地域・社会への関わりについて積極的である回答が多くあった。

《強み・弱み》

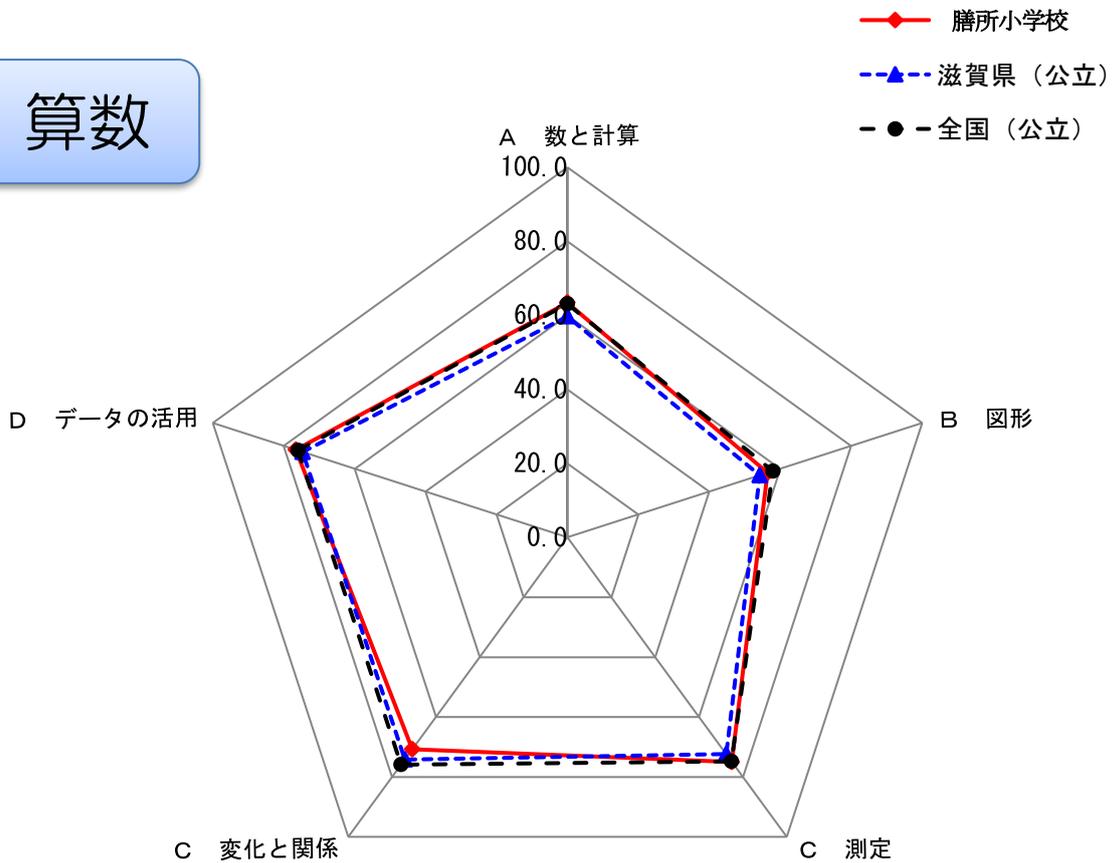
国語では、「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均を大きく上回り、話し言葉やスピーチから大切なことを聞き取る力が強みと言える。逆に文中で漢字を正しく使うことや目的や相手の意図に応じて書いたり読んだりすることに苦手な傾向が見られた。

算数では、「式と計算」「測定」で基礎的な知識の定着が見られ、全国平均を上回った。その他に「データの活用」においても強みが見られグラフからデータを読み取る力の定着が見られた。一方で、速さ、道のり、時間の関係について考察する「変化と関係」については、苦手な傾向が見られた。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



算数



【指導の充実に向けて】

◇各教科において主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を目指す。

- ・「書くこと」の育成に重点を置いた言語活動の充実を図り、主体的に知識を活用したり思考を表現したりすることで深い学びに繋げていく。
- ・読書活動を推進し語彙の獲得を充実させ、説明文や考察文といった日々の作文活動を通じて、各教科で自分の考えが表現できるようにする。
- ・読むことや書くことを通じて、自分の考えを整理したり表現したりできるよう、複数の要素を関連させた学習を行い、より知識を活用できるようにする。

◇国語、算数を中心に基礎的・基本的な内容をさらに定着させるため、漢字や計算の練習といった日常的に継続可能な取り組みを進める。

◇児童の興味関心を引き立てる教材の研究開発を行い、ICT機器を活用した学習形態を積極的に取り入れていく。